

令和7年度9月号 [9月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校

川口市東本郷2-20-47番地

TEL 048-281-4065

特別支援学級 285-2423

さわやか相談室 281-4627

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

背中を押す

校長 柳田 勇

9月になっても信じられない暑さが続き、秋が訪れるのか心配になるような日々が続いております。生徒をはじめ、保護者・地域の皆様も体調管理には十分お気を付けいただきたいと存じます。

2学期は、様々な学校行事や進路実現に向けた取組が予定されています。始業式で生徒たちに、「目標を決めることで、取組が違ってくる」と話しました。当たり前のことですが、自分が求める目標を決めることで、努力の必要性を感じるはずですが、目標の達成に向けて行動することが難しいのは、誰もが感じるはずです。中学校生活は、「やることはやった」「もっとやればよかった」の繰り返しにより、成長していくのかもしれない。では、私たち大人は、子供たちをどのように支援していけばよいのでしょうか。

思春期と呼ばれる中学生期は、以前も記述しましたが、自己形成に向け成長していく段階になります。自分自身でも分かっているのに、なかなか思うようにいかず、悩みを抱えるものです。保護者・地域の皆様にも、経験があるかと存じます。皆様は、子供たちを支援していくときに、それぞれ大切になさっている『想い』があるかと思います。しかしそれは、うまくいくときもあれば、なかなか難しいときもあるのではないのでしょうか。私自身、多くの卒業生と接してきていますが、『これをやれば大丈夫』といった誰にでも通用する支援方法は確立できていません。当然のことですが、生徒一人ひとり、十人十色だからです。

今の私が、生徒たちへの支援として心掛けていることは、『背中を押す』ということです。そのための方法は、いろいろありますが、最終的には自分が決めた目標や夢に向けて努力した結果でなければ、生徒の成長はないと感じているからです。しかし、周りから見ていると、このままではよくないと感じることも多くあるかと存じます。そのために、様々な方法で支援なさると思いますが、生徒が自分で一歩を踏み出さない限り、成長はないのかもしれない。

私たち大人が、生徒をより良い方向に導くには、生徒の前に道を作って歩ませるのか、それとも生徒が自らの足で道を作り上げていくのがよいのか悩むところです。きっとどちらも必要なことだと思います。しかし、進むのは生徒自身です。背中を押すために必要な声援や声掛けを、大人が忘れてしまうことが一番よくないことのように感じています。そして、生徒の様子をよく見て、共感してあげること、また、信じてあげることが必要なことなのだと思います。

人は応援されることで、自分でも思っていないような力を発揮できることがあります。自分の人生を自分で切り拓くことができる子供たちを育てていきたいと思っております。